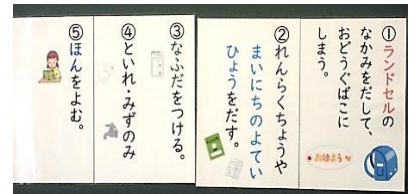


コロナの制限がなくなり今年度はコロナ前と同じ研修を行うことができました。多くの方に研修を受けていただくことができ、先生方の子どもたちを思う気持ちと学びの姿勢を嬉しく思いました。

今号は支援活動特別号として、幼児教育センターの所員が週1日小学校で行っている支援活動の中で集めた、就学後の学校の取り組みや子どもたちの様子についてお知らせします。また、保育園、幼稚園の子どもたちを小学校に招く形での交流が復活しています。交流会の情報もお知らせします。

## \* 保育園、幼稚園からの就学\* ～スタートカリキュラム～

保育園、幼稚園と同じように、支度の仕方の掲示があります。就学当初は時間にゆとりを持ち、教科書や持ち物の支度や置き場所を学んでいきます。手順に慣れてくるとスムーズに支度を済ませ読書などで授業が始まるまで過ごします（6年生がお手伝いに来てくれる学校もあります）。4月は学校探検などで場所や学校にいる人を知り、安心して過ごせるような活動をしていました。自己紹介カードを作ったの自己紹介などの楽しい活動から始まります。授業も最初から45分ではなく短めに、のびのびタイム（自由な遊び）、なかよしタイム（友達と活動）、わくわくタイム（生活科）、ぐんぐんタイム（教科書の時間）などで徐々に学びに入っていきます。



校舎の見取り図を作り学校探検へ

## \* 時間を知ろう \*



短針の読み方も書いてあります。

チャイムが鳴る学校、鳴らない学校と様々ですが、授業時間や休み時間の区別があることが保育園、幼稚園と違うところです。休み時間の使い方が分からずに授業中や始まる直前にトイレや水分補給をする姿が多く、休み時間に済ませることを先生方は繰り返し知らせていました。時間を守ることが学習をしっかりと保障するだけでなく、授業が始められないことで友達の学びの時間を奪うことにもなると知らせていました。

## \* たくさん遊んだ経験は学習を深める \*

お店屋さんごっこ、動植物の飼育、砂や水を使った活動など、保育園、幼稚園ではたくさんの遊びを経験します。学校の砂の学習では友達とダムを作り、他の友達が作った川とつなげ協力し合う姿が見られていました。「すぐに水がなくなるんだよね。もっと水持ってこよう」と役割を決めていました。遊びを通して感じた「不思議だな」「何でだろう」の疑問や経験は、より深く考え、観察し、調べるなどの学習につながっていると思います。

## \* 言葉での伝え合い \*

話し合いで意見を交わし、活動を決める学習が多くなります。経験を重ねていくうちに「自分はこうしたい」と意見を出し、「良いね!」と相手を認め、「こうしよう」と折り合いをつけ、まとめる力がついていくのを感じます。友達関係の中でも、まだまだトラブルは多く、解決が難しい時は先生方が何があったのか、どうしてそうなったのか、どうしたら良かったのかを子どもたちに聞き、話し合えるように援助し見守っていました。嫌なことをしっかりと伝え、相手の気持ちを聞き、相手の思いを知る経験が大切だと思います。

## \* 円滑な接続に向けて \*

学習が進むと「字を書くことが苦手」「計算が得意」などの個性がでてきます。先生方と情報を共有しながら子どもたちに寄り添い、学習が楽しくなるように支援することを心がけています。支援をしていて苦手なことに戸惑いながらも、分かるようになりたいという子どもたちの思いを感じます。

子どもたちが学校生活の中で困っている場面や就学に必要なことは何かを捉え、学校生活を楽しく過ごせるように研修などにつなげていきたいと思っています。